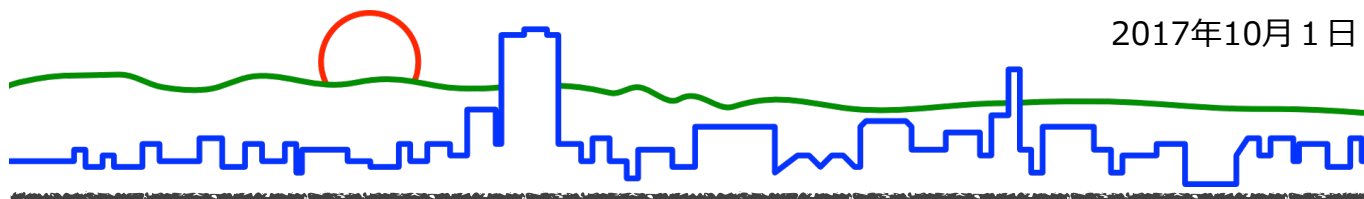


2017年10月1日



3年目の路線変更

はちおうじ総務相談所の長岡です。お彼岸を過ぎてもそこそこ暑い日が続いていましたが、朝晩はだいぶ涼しくなりましたね。寝冷えに気をつけてお過ごしください。

それはともかく、この事務所通信もおかげさまで3年目に入りました。ぎりぎりになることも何度かあったものの、なんとか毎月1日の発行を続けられています。

そんな感じで2年間休まず発行してきた結果、前号のダウンロード数は20程度となっています。号をさかのぼるにつれて数が増えるのは、検索エンジンの「クローラ」というやつらが定期的にアクセスしているせいかもしれません。そう考えると、実際に読んでいるのは、20名いるかどうかなのではないでしょうか。メルマガの発行部数も、開始時の紹介キャンペーンが終わってからは2部しか増えていませんし（9月28日現在18部）。

連載を始めたころは顧問先の社長などにもメールを送っていたのですが、メルマガ移行でそれも途絶えました。そして、新規のお客様には最初からお知らせしていません。ですので、新規顧客の開拓はおろか、既存顧客との関係強化にも役立っていないのが事実です。

ところが同業者の中には感想を伝えてくれる人などいますので、いっそのこと「同業者向け」に路線変更してしまおうかと考えておりました、じつをいうと、1年くらい前から。

そんなわけで、3年目の第1号となる今回からは、「同業者（士業）に役立つ情報」を意識して編集していく予定です。とはいえ、よくある「士業で売上**万円」みたいなのは書けませんので、事務所の近況報告ですとか、新しい道具や制度の活用事例などを紹介していけたらと考えております。あとは、参考になった本やおもしろかった映画の紹介でしょうか。つまり、今までとあまり変わらないわけです。



行政書士の季節ですね。

今月の予定（2017年10月）

- ・厚生年金保険料率改定
- ・標準報酬月額変更（該当者）

* 9月分の給与を10月に支払う事業者が対象です。

今月の推薦図書 vol.25

『建設業の未来を支える人づくり』
鶴蒔靖夫 著 2017年 IN通信社

建設業に特化した人材派遣会社の取組を紹介している本です。労働者派遣が禁止される業務に「建設業」が入っているのはわりと有名なはずですが、それはあくまでも職人さんの話ですので、こちらの会社のように設計や施工管理の部門への派遣であれば問題ないわけです。しかし、派遣社員だと現場の配置技術者にはなれないのがつらいところですね。

それはともかく、「建設業」＋「人材育成」ということで、行政書士としても社労士としても、これは読んでおかなければならないなと考えて手にしてみました。まあ、実際はAmazonでダウンロードしたわけですが（Kindleの読み放題で）。

特定企業の紹介に重点が置かれているのは後半の一部で、むしろ建設業界を取り巻く環境や将来予測などが詳しく解説されていて、予想していたよりもずっと勉強になりました。

社長の経歴もおもしろく、建設業の将来に対する熱い思いが伝わってきて胸が熱くなります。また、それを紹介する筆者の語り口も熱く、全体的になかなか読み応えのある本でした。建設業を愛する人にお薦めの一冊です。

今月の推薦映画 vol.25

『ダンケルク』
クリストファー・ノーラン 監督 2017年

第二次世界大戦初期でドイツ軍に勢いがあつたころ、海岸まで追い込まれたイギリス・フランスなどの軍隊が船での撤退を余儀なくされたという、史実に基づいた作品です。

懸命に生き延びようとするイギリス陸軍の若い兵士を中心に、イギリスから自前の船で救出に向かう民間人や、撤退作戦を成功させるために燃料の少ない機体で戦い続けるイギリス空軍の熟練兵なども描かれ、陸海空からの視点で物語が進んでいきます。

主人公にあまり特徴を持たせなかったのは、「名もなき兵士も命がけで闘っていた」みたいなことを伝えたかったからでしょうか。ただ、そのせいか、周りでバタバタと倒れていく兵士たちとの違いを感じられず、ぜんぜん感情移入できませんでした。

ノーラン監督といえば、やはり『ダークナイト』が有名でしょう。その後の作品は評価が分かれているようですが、私はどれもけっこう好きでした。しかし、今回はダメでしたね。同じ監督の作品でも、何かの違いでここまで胸に響かないのかと思うと、やはり顧客満足を維持していくのは難しいことなのだなと、しみじみと感じる今日この頃です。

編集後記

これまで「経営者に役立つ情報」を編集方針にしていたのですが、今回から「同業者に役立つ情報」に変更することにしました。まあ、初期のころから「同業者も経営者ですし」みたいなことを言っていたので、それほど大きくは変わらないかもしれません。

こんなふうには多少の変化はありつつも、なんとか3年目を迎えることができました。考えてみると、社労士登録と同時に創刊したので、社労士生活も3年目に入るわけです。そろそろ新人気分も卒業しないといけませんね。まあ、行政書士としても似たような感じですが……。